

異国姫 爆音響く 翡翠色 【ゼロ魔 単発ネタ】

サワラ先輩

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

もしもゼロ魔にモンハンのアイツがいたら

目次

## 単発ネタ

ここはトリステイン。

そしてここでは春の使い魔召喚儀式が行われていた。

ドゴオン！

そして身体中土まみれで何度も失敗しているこの少女の名はルイズ。何回も爆発を繰り返す彼女には数々の生徒から非難や怒号が飛び交っていた。

やめちまえ！

何回も失敗しやがって！

こんなもの！こんな！手作りチョコなんて！

そこへコルベール教授の心ない言葉が告げられる。

『次にできなかつたら…終わりです』

ルイズ『っ！次で必ず！』宇宙のどこかにいる崇高な私の使い魔よ！我が命において姿を現さん！』

パン！（大破）

失敗されたかと思われたが、その砂塵の中には確かに姿があった！ルイズ『やった！私の使い魔！』

この大きさはドラゴンか？それともグリフォンか？どれにしるこの大きさならかなりの優秀さに違いはない。

しかし…現れたのはルイズの想像したものとは程遠い。

愛らしい顔つきをした美しいけど魚臭い、エメラルド色の大きな魚竜だった。

ガノちゃん『ドヤツ。▽。』ビタンビタン

ルイズ・コルベール・周り『』

あまりの仕打ちに周りはドン引きし、誰も彼女を囁きなかったルイズ『えっ…これが私の使い魔？』

ガノちゃん『へっ』せやで

コルベール『 まあ使い魔の召喚儀式は終わり！閉廷！』

この一言によって生徒たちはバラバラに去ってゆく

ルイズ『取り敢えず水に入れなきや…TωTうっ…あんまりよ』

そして最近雨が降り水位が増した湖？のようなものにつれて行く。  
ガノ『はえ〜』グラグラ

ルイズ『？何よこれ』

ズガアン！

ルイズ『?!』

突然地面が揺れる。

そして何かが現れる。

ドツ

現れたのは、スポンジのような質感の竜だった。

ルドロス『、ω、』俺だγ『バクツ』

そしてすぐさまガノちゃんが食べる。

そしてそれを3回位した後：すぐさま眠った

しかしそれには隙がない眠りかただった。まるで近づいたらあいつと同じようにするぞと言わんばかりに

そしてルイズは眠るときに不思議な夢を見た。

自分の使い魔が町を蹂躪しているのだ。

人びとはガノトトス亜種と呼び、逃げ惑っていた。そして逃げ遅れた人を：

そこで目が覚めた。

ルイズ『夢？さっきのは一体…』

そしてガノトトスのところへ行く。

ルイズ『ガノトトス？って言うのよね』ガノトトス！出てらっしやい！』

ガノトトス『。ω。』呼んだ？　ザバアン

ルイズ『食堂に行くわよ。付いてきて』

ガノトトス『∩▽∩』ええで

食堂

ルイズ『あんたはここで待つてなさい』  
ガノトトス『!』ドン!

ガノトトスは突如部屋で猫が泣くくらいの大きさで地面を叩く。  
ルイズ『なにしてんの?っ!』

バン!

地面から鯨のようなガノトトスのような小さい竜が飛び出す。

それもただの床から。しかも傷ひとつついてない。

ガレオス『C。』ぷはっ 俺の家族に飯を運んでいたのに…!?

ガノトトス『。』『。』生かして返さん

ガレオス『アーツ!』

ルイズ『あんた…まあいいや』

ガノトトスは静かに主人の帰りを待つていた。そこに気取った金髪が近づく。

ギーシュ『これがゼロのルイズの使い魔?』

取り巻き『惚けたような顔してんなお前な』

取り巻き2『そうだよ』

ガノトトス『?』スツク

ギーシュ『!?!うわっ』パアン!

ギーシュが慌てて落としたピンを…ガノトトスが足で踏み潰した。

ギーシュ『何をしてくれるんだ!これはモンモラン』ギーシュ様?』

ひっ!ケーシイ?』

ギーシュ『これは違うんだ!これh』最低!この人間の屑!』

元 彼女に振られ、彼は怒りの矛先をガノトトスに向ける

ギーシュ『君は二人の(r y)

ガノトトス『?』俺知らんし

ギーシュ『決闘だ!』

ガノトトス『( ) ( )』ええで

広場

ギーシュ『逃げなかったのか?魚風情だが逃げなかった所は誉めて

やろう』

ギーシュ『行くぞ！ワルキューレ！』

色んな形の青銅の乙女たちがガノトトスに向かい、思わずルイズは目をつぶる。しかし…

当たり前判定の王  
魚竜の王にそんなことは効かない

亜空間タツクル！周りのワルキューレは後ろ側のも全員吹っ飛ぶ。

ギーシュ『は？』

そしてギーシュは杖で対抗しようと試みるも…

高水圧プレス！

例の腹這い！

水のトライアングルやスクウェアにも劣らない攻撃になすすべはなかった。

ガノトトス『へっへ』

ギーシュ『』

ドーーーーンッ

この勝負。ガノトトスの圧勝だった。

そしてガノトトス亜種はこの国の戦いを収めることにことごとく貢献し、英雄の使い魔となったのであった。